

Sports Net

ちば 2017年 5月号

New Japan Sports Federation in Chiba Prefecture

2017年 4月30日

「スポーツは平和とともに」
新日本スポーツ連盟千葉県連盟
〒263-0024 千葉市稲毛区穴川3-1-17
Tel 043-287-7353 Fax 043-256-1454
URL http://sports.geocities.jp/njsf_chiba
E-mail njsf1970chiba@gmail.com
発行人 園川 峰紀
通巻 181号

全国大切符を掴んだ“CLOVER” & “ROUGE”

～第10回ミックスバレー印西市大会／第12回全国大会予選～

今回で10回目の節目の大会を迎えたミックスバレー。募集開始当初は参加したい旨の連絡が途切れなかったものの、大会が近づくにつれ「都合が付かない」「メンバーが揃わない」「大会直前の練習でケガをしてしまった」等々の連絡があり、10回目にして4チームという寂し～～い大会でした～～～～と書こうと思っていたところ、案に相違して、いざ試合が始まると熱戦に次ぐ熱戦が続き、優勝したのは昨年本大会で準優勝して全国大会に駒を進めた“CLOVER”と本大会ではお馴染みの秀明大学チーム“ROUGE”の2チーム。この2チームの熱戦はどちらも相譲らず、がっぷり四つに組んだ2勝零敗同士の最終戦の第6試合は圧巻でした。

CLOVERはそれまでの2試合とは打って変わって真っ白のユニフォーム。一方、ROUGEはその名のとおりルージュ（口紅）を思わせる真っ赤なユニフォーム。奇しくも紅白戦の試合形態となり、コート上では両チームの素晴らしい熱戦が展開されました。



アタックを打つ荒木優選手

1セット目はCLOVERが序盤戦は一步リードする展開。ROUGEたまたまタイムアウトの連続。じりじりとCLOVERが差を広げるもROUGEが激しく追いつき、追いつき一気にセットポイントを握る。その勢いのまま25-22でROUGEがこのセットを勝ち取る。2セット目、序盤戦はCLOVERがペースを掴み、ミスが連発するROUGEを下し、シーソーゲームを制して25-18でCLOVERが勝利。3セット目、序盤からCLOVERが一気に差を広げ、コートチェンジの後たまたまROUGEはタイムアウト。タイムアウト後、

一旦RIUGEに傾きかけた試合の流れだったがCLOVERのエースアタッカー荒木優選手の渾身の力を込めたアタックでゲームオーバー。15-13でCLOVERが3勝零敗で堂々の優勝を飾った。

両チームは12月2日～3日、宮城県気仙沼市で開催される第12回全国ミックスバレーボール大会への出場権を得たこととなります。昨年は残念ながら千葉県から1チームのみの参加でしたので今年は是非とも両チームが東北の地で活躍してくれることを願ってやみません。

CLOVER、ROUGE以外に参加して頂いた2チーム「スプリングワン」「ウニ君」は力を尽くすもそれぞれスプリングワン＝1勝2敗、ウニ君＝零勝3敗の成績でした。

今大会は4チーム総当たり戦で行う試合形式で各チーム3試合ずつ、合計6試合行いました。次回は、2018年1月14日（土）千葉県総合スポーツセンター体育館で交流大会を開催します。（文責：ミックスバレー担当／園川）



優勝した CLOVER



準優勝した ROUGE

栄町クラブZが草薙行（全国選抜大会） の切符をゲット！

～～第40回全国選抜軟式野球大会・関東大会～～

4月9日（日）道満球場（埼玉県戸田市）で開催された「第40回全国選抜軟式野球大会・関東大会」で数々の実績を誇る「栄町クラブZ」が、この5月20日～21日に草薙球場（静岡県静岡市）で開催される全国選抜大会への切符をゲットしました。この大会は、高校野球でいえば「春の甲子園大会」と言えるもの。前年の各県の優勝チーム4チームによる大会で今年は記念すべき第40回大会となります。

過去何度も同大会に駒を進めた栄町クラブZは今回も決勝戦で初回ホームランを含めて5点先取した後の激しい雨の為「降雨ノーゲーム」というあっけない幕切れで優勝と相成りました。

試合経過は次のとおりです。

第1試合は、東京都代表「J-STYLE」vs 神奈川県代表「マベリック」。両投手の投げ合いで最終回までもつれ、最終回Jは2番から3連続ショート内野安打で満塁とし、ツーアウトから四球で先制、時間切れルールを適用しそのまま勝利。第2試合は、千葉県代表「栄町クラブZ」vs 埼玉県代表「渡辺ツインズ」。第1試合同様、両投手が好投し特別ゲーム（タイブレーク）になり、栄町が1点先取後、次打者がホームランで試合を決める。決勝戦は栄町vs J-STYLE。先攻栄町がいきなり初回5点先取。その裏雨が激しくなり降雨ノーゲーム。抽選の結果、栄町が関東ナンバーワンに決定。なお、関東からは栄町とJ-STYLEの2チームが全国選抜大会に参加予定となります。スコアは下記のとおり。

第1試合 東京都代表「J-STYLE」vs 神奈川県代表「マベリック」

チーム	1	2	3	4	5	6	7	計
J-STYLE	0	0	0	0	0	1		1
マベリック	0	0	0	0	0	0		0

(投手) J: 蓬菜一布施野/M: 大塚一山本

(審判) 主審: 三上/一塁: 長尾/二塁: 坂下/三塁: 鈴木

第2試合 千葉県代表「栄町クラブZ」vs 埼玉県代表「渡辺ツインズ」

チーム	1	2	3	4	5	6	7	特	計
栄町クラブZ	0	0	0	0	0	0	0	4	4
渡辺ツインズ	0	0	0	0	0	0	0	1	1

(投手) 栄: 土谷一浦野/渡: 出島一木村

(審判) 主審: 杉下/一塁: 坂下/二塁: 脇村/三塁: 加藤



決勝戦 千葉県代表「栄町クラブZ」vs 東京都代表「J-STYLE」

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	抽	計
栄町クラブZ	5							5	5
J-STYLE								4	4

(投手) 栄: 土谷一浦野/J: 大崎・蓬菜一布施野

(審判) 主審: 坂下/一塁: 長尾/二塁: 三上/三塁: 脇村



掲載している写真は本文とは関係ありません
(全国野球協議会ホームページより)



クラブ紹介

サイドステップ

テニス

- ① **クラブ(チーム)名** サイドステップ
- ② **代表者** 黒沢 裕美子
- ③ **チームの概要** (名前の由来・チームの特徴・練習日程・人数等)
 チームの名前は、テニスの基本であるサイドステップを忘れないように、テニスを始めて一つ一つの技術を覚え始めたあの頃を思い出すため『サイドステップ』と名付けました。
 でも、試合に夢中になるとつい忘れちゃいます。



メンバーは7人で、「テニスができない年齢になっても永いお付き合いを」がチームのモットーで、4月にはお花見、1泊旅行や親睦会などテニス以外にも楽しみを見つけて活動しています。

千葉県テニス協議会の試合には昨年から参加しています。練習は毎週水曜日、15時から17時、習志野市秋津にある市営コートでやっています。

各々のお友達を誘いすばらしい仲間も増えました。



④ **クラブのアピール** (2017年度の抱負等)

昨年から参加しているシニア大会で5月に準優勝、12月には優勝ができ、皆喜んでます。
 テニスができる喜びを感じ、健康に気をつけ、4試合戦う体力作りを目指します。

⑤ **その他** (スポーツに関する情報・スポーツ連盟に期待すること等)

大会運営関係者の方々には、大会の企画、運営、その他大変感謝しております。これからもよろしくお願いいたします。



千葉公園→稲毛海浜公園
反核・平和マラソンのご案内
 2017年7月16日(日)午前10時スタート

て走ることの意義はますます高まっているといえます。
 一歩でも二歩でも一緒に走りましょう。



北朝鮮とアメリカがそれぞれの核を背景にきな臭さを増しています。
 国や宗教の如何を問わず双方の国に自制を求める動きが強まる元でも、日本政府はアメリカ追随の姿勢を未だにとっています。
 こうした時期に、反核・平和を沿道に訴え

日 時: 2017年7月16日(日) 午前10時スタート
 集合場所: 千葉公園・錦打池前
 (JR千葉駅北口から徒歩5分)

常任理事会報告

第45期第2回常任理事会

4月24日(月) 県連事務所で常任理事6名の参加で第2回目の常任理事がありました。

恒例の「ひろば誌」の感想文：直前のひろば編集会議に参加していた園川理事長から5月号のお勧めは「オリパラ都民の会」主催の“東京五輪の施設の今”レポート、北区ナーレ、スポトク欄のテニスの点数の数え方などなど読みどころ満載の熱いトーク。

<報告事項>

- 各種目総会が目白押し(野球・卓球・テニス・バレー等)である。今年一年の活動を固めるものであり各協議会とも真剣な討議がなされた。
- ミックスバレー大会(印西市)全国大会予選を兼ねCLOVERとROUGが出場権を得る
- リレーマラソン準備が佳境に入る。240チーム、選手・役員入れて約2400名規模

<連絡事項>

各種目とも活発な大会運営が行われている。主な状況は次のとおり

- ランニング：リレーマラソン準備大詰め。240チームの参加確定
- バレーボール：春のフェスタが始まる
- 卓球：春季大会
- 野球：リーグ戦/運営委員会開催
- 空手：新会長のもと、春/冬の大会開催予定
- スキー：総会準備(6月25日)

<組織拡大交流集会>

- 6月3日～4日、都内池袋で開催される集会に佐々木事務局次長が参加予定

<協議事項>

- ① Sports Net ちば 理事持ち回りによる「アラカルト」の執筆順番の変更
- ② 2018年度園連盟総会日程/3月25日開催を確認
- ③ 2019年度県連盟総会日程/第3週日曜日を目途に開催予定

<財政>

- ランニング協議会からの提案・主管料を減額(30万円⇒20万円)
出資はリレーマラソン会計から、将来は100万程度を県連盟財政に充当する。

<ひろば誌>

- 現在の部数 160部で全国連盟に連絡を行う

<その他>

- 32期第5回全国連盟理事会報告(スポーツネット5月号の掲載予定)

<まとめ>

- 各協議会から2017年度活動方針と2016年度報告を受ける。また各協議会が抱える問点を討議



スポーツアラカルト

”〇〇・ファースト”について

千葉県連盟理事 秋本信孝

森喜朗(東京五輪組織委員会会長)や川淵三郎(日本バスケットボール協会会長)らの発言について、A新聞に次のような投書が載った。「競技会場について、競技団体やアスリートから発言が相次いでいる。残念ながら彼らには納税者、震災被災者、生活困難者が見えていないようだ。莫大な借金、破綻しようかという年金制度を尻目に、自ら『アスリートファースト(選手第一)』と言える彼らの神経が理解できない。(中略)ささやかに暮らし、納税している私たちのことなど念頭にない。競技団体に至っては、巨額の建設費などに群がる企業との癒着も想像してしまう。素晴らしい競技場でなければ結果が出せない人は真のアスリートではない。どんな条件でも死力を尽くす覚悟なしにあれこれ言う人たちには税金を使ってほしくない。負の遺産が増えるばかりだ」(京都府 女性68歳)。

これに対しアスリートの中にも有森裕子らが”社会

ファースト”を唱え、被災地の子どもたちの自立支援にスポーツを通じて取り組み、社会あってこそのアスリートだとの姿勢を示している人もいます。

”アスリート・ファースト”が強調されるようになったのは、「オリンピック・ムーブメントの全ての構成員と他のステイクホルダー(利害関係者)とは成績、健康そして責任の観点から、アスリート特にジュニア・アスリートに有害となる過重なトレーニングと競技日程の最近の傾向に配慮すべきである。さらに必要に応じて、この傾向の拡大を防ぐために適切な対策を講じなければならない」(IOCオリンピック・ kongressの文書 2009 コペンハーゲンより)とあるように、商業主義あるいは国家主義にアスリートが利用されないようにとの願いを込め使用されるようになったのである。森、川淵らは本来の意味を意図的に曲解して競技場建設をし、その為に一部アスリートが利用されているとみるべきであろう。

第32期第5回全国連盟理事会レポート

～6月開催の全国組織拡大交流集会在ザ・ビギンボードになるか～

第32期第1回評議員会で議論された成果を基にして、2017年度活動の具体化を図ることをメインテーマとする第32期第5回理事会が4月8日～9日の二日間、帝京平成大学集会室及び東部区民事務所で全国から集まった理事の間で熱い議論が交わされました。

大きなテーマとなったのは、評議員会で最も議論が集中した「今後1年間10%増、4500名の会員増をいかに達成するか」でした。この議論については全国連盟通信(No.5/2017年2月28日発行)にも整理されていますが、スポーツ連盟の良さは、全国連盟・全国種目組織・都道府県連盟が互いに協力し、活動を発展させていく運営にあります。この良さを発揮して取り組むことが必要であり、その実現に為に全力で取り組むとしています。

評議員会では後ろ向きの発言が多く聞かれましたが、この目標を実現するためにも、各連盟、種目別組織は自主目標を持つことが大事であることが強調されました。そして6月予定の組織拡大交流集会の企画・運営は抜本的に改善・成功事例の紹介、困難な課題や悩みを討論する分科会、目標を実現するための相談会等今までにない企画が用意されることとなります。各連盟、各種目別協議会からの参加が訴えられました。

その他、2017年度活動について各部局からの報告・提案は次のとおりでした。



- 1) 第31回全国スポーツ祭典(関西ブロック)まとめ; 渡辺実行委員長/関戸事務局長
 - ※ 3月スキー祭典をもって終了。選手・役員総数約5500名。協力・共同の広がり、記念グッズ販売状況などが報告。次回の東北ブロックでの大会成功を祈念する。
- 2) スポーツ活動・組織局: 宮内都連事務局長
 - ※ 第32回全国スポーツ祭典(東北ブロック)及び全国組織拡大交流会議について。



会場変更を含め概要説明。組織交流会は事前調査が行われる予定。

- ※ 第33回全国スポーツ祭典(関東ブロック)は再度各種目別協議会等に意見を求め再検討することとなりました。

3) スポーツ権・平和運動局: 萩原副理事長

- ※ 国民平和行進・2017反核平和スポーツの集い・2020福島/広島/長崎1800kmマラソン・2020五輪/パラ・第2期スポーツ基本計画についての説明

4) 国際活動局: 長井副理事長

- ※ FSGTとの交流/Vivicitt準備状況/ダブルダッチ懇談会等の報告

5) 広報局: 佐藤副理事長

- ※ みんなで創る「ひろば」2500部まであと70部!/インターネット(全国連盟HPのリニューアル/フェイスブックの普及/メルマガ配信検討等)の活用を図ることが報告・説明

6) 総務局: 福島事務局長

- ※ 事務局体制の確立を図る(アルバイト補強、専従若返り等)及び在籍30年以上のクラブ表彰組開始が報告

7) スポーツ科学研究所: 青沼事務局長

- ※ 第5回スポーツ科学研究所シンポジウム(3月22日～23日:都内池袋)の概要報告
- ※ 第6回シンポジウムは9月2日～3日・京都にて開催予定。

8) その他

- ※ 第33期機構・役員検討委員会(和食会長以下10名で構成)が4月24日発足
- ※ 次回理事会(第6回理事会)

日程: 8月27日(日)

SPORTS CALENDAR

5月

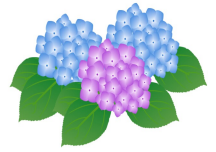
3日(水)～4日(木) 野球協議会リーグ戦
第36回春季テニス大会
6日(土)春季卓球大会
7日(土)野球協議会リーグ戦
第36回春季テニス大会 (チーム対抗)
14日(日)野球協議会リーグ戦
20日(土)第36回春季テニス大会
21日(日)野球協議会リーグ戦
春季サッカー大会(予定)
第28回シニアテニス大会
27日(土)第36回春季テニス大会 (チーム対抗)
28日(日)野球協議会リーグ戦
青葉の森リレーマラソン

千葉県テニス協会総会 3日



6月

2日(金)ダブルス卓球大会
4日(日)野球協議会リーグ戦
11日(日)野球協議会リーグ戦
18日(日)野球協議会リーグ戦
25日(日)千葉県スポーツ祭典・テニス大会
(関東ブロック予選)



組織拡大交流集会 3日～4日



野球シーズン真っ盛り！

お寒い市民スポーツの現状！！

今年のプロ野球界はWBCで盛り上がりその勢いでシーズンインしました。セリーグは去年の勢いそのままに赤ヘルこと広島カープが首位を突っ走っています(4月21日現在)。ダークホース的な横浜も頑張っています。一方、パリーグは昨年日本一となった日本ハムは大谷翔平選手が怪我、中田翔選手も戦線離脱となり最下位に甘んじ、開幕前は下馬評が低かった東北楽天が破竹の連勝を繰り広げ現在首位(4月21日現在)。海の向こうでも日本人選手の活躍が連日スポーツ紙を飾っています。そして春の選抜高校野球では、なんと2試合が引き分け再試合。一人の投手が連投を余儀なくされることが問題となりました。

かように野球というスポーツは日本人には風物詩として受け入れられ多くの人々に愛され、かつ楽しまれています。新日本スポーツ連盟野球協議会が主催する全国大会もその一つ。今年は千葉県野球協議会主催で11月11日～12日の二日間で開催される予定となっておりますが、会場確保に非常に苦労している事が担当理事からも報告を受け、年明けから千葉県内の主だった施設にあたってみても既にどの施設も予約で一杯。途方に

暮れていたところ、千葉市から若干離れていますが長生郡に立派な施設が確保できたとのこと。担当理事からも安堵の報告がありました。

この原因は、そもそも公共スポーツ施設が足りないことにあります。また、ほとんどの施設が優先利用者によって占有使用されている実態が明らかになりました。スポーツ基本法には公共スポーツ施設は地方自治体が責任を持って整備する、とありますが、肝心のスポーツ関係予算はTOTO等『くじ』に頼ったものでお寒い限り。今回のような事態が発生することは野球に限らず市民スポーツ界では日常茶飯事です。

先日スポーツ庁が発表したスポーツ基本法2期計画の発表ではお題目は立派だが予算的裏付けはゼロ。これではいつまでたっても問題は解決しません。やはり国の予算の使い方、とどのつまり政治が変わる事が必要なですね～～福祉の観点が必要であることを改めて感じさせてくれた一件でした。

園川 峰紀



理事長の独り言